

令和3年度第2回東海村高齢者福祉計画推進委員会 議事録

日時：令和3年12月3日（金）午後6時30分～午後8時

場所：東海村役場5階 原子力視察研修室

出席者：【委員】薄井委員長，藤澤委員，土屋委員，安田委員，今橋委員，青木委員，石丸委員，阿部委員，砂押委員，関山委員，内藤委員，岡野委員，清水委員，舟木委員，菊本委員，岡村委員，杉山委員

【事務局】（高齢福祉課）佐藤課長，藤田副参事，佐々木補佐，川崎補佐，武藤係長，川上係長，鶴田係長，前田係長，上田係長，大杉係長，ヴァキリ主任，野内主事，（福祉総務課）渡邊係長，（健康増進課）濱保健師，（住民課）小林係長

欠席者：【委員】山本委員

- 1 開会
- 2 高齢福祉課長
- 3 委員長挨拶
- 4 議題

(1) アンケート結果を踏まえた委員会開催方法等について

事務局	<p>資料1について。8月に実施したアンケートの結果，委員会の開催方法については，感染者数が落ち着いている状況では対面式とするが，増加が見られた場合はオンラインで実施という方法をとりたいと考えている。オンラインで実施となった場合，ツールが無い方は役場の会場に用意し，そこから参加いただく予定である。</p> <p>次にグループワークのテーマについて，様々な意見をいただき，全てではないが，今回のグループワークのテーマに反映した。</p> <p>最後にその他委員会に対していただいたご意見について。今後の委員会実施に当たり，参考にさせていただき，進めていきたいと考えている。</p>
各委員	了解

(2) 令和3年度における取組の中間実績について

事務局	<p>資料2の中間実績に対する事前質問として，1名の委員から2つのご質問・ご意見をいただいている。</p> <p>1つめは，P1の認知症予防教室の開催について。</p> <p>認知症予防プログラムを動画配信しているが，今後の福祉サービスのデジタル化の取り組みとして，その効果や問題点を整理してもらえるとこれからの</p>
-----	--

	<p>デジタルトランスフォーメーション（進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること）に向けての検討材料になるのではないか。というご意見であった。</p> <p>まずこの点について事務局から回答する。</p>
事務局	<p>今年度は対面式の教室が実施困難を理由に、委託先である那珂医師会に認知症予防プログラムの動画制作を依頼し、6本の映像が納品された。</p> <p>そのうち公開可能なもの3本をYoutube配信した。</p> <p>感染症対策をきっかけに、認知症予防の取り組みもデジタル化が進む形となったが、今後も予防教室においてデジタル化に向けた取り組みを検討していきたい。</p> <p>一方、高齢者はデジタルディバイド（情報格差）が大きいとされている。今後は、村のデジタルディバイド施策担当課とも連携しながら、認知症予防を含む介護予防・フレイル予防の取り組みについても、従来の対面式の手法はもとよりデジタル化等の手法を考えたい。</p>
委員	<p>コロナ禍で、大学での研修も座学ではなく配信に切り替わることが多くなってきた。自分の話になるが、研修や予防は目の前で介護サービスを必要としている人への対応と比べると余裕があり、いつかやればいいと思ってしまいがちである。動画の配信だと会場に行く煩わしさもなく、気軽に接することができると思う。</p> <p>本事業は視聴者数も目標を達成しており、もっと活用できるのではないかと感じた。</p>
事務局	<p>2つ目はP7介護相談員派遣事業について</p> <p>コロナ禍で対面での相談活動が中止になっているが、オンラインによる実施も難しいということであった。しかし、サービスの質と適正化の面では第三者の関わりがとても大切なので、オンライン以外も含めデジタル化の取り組みで何らかの形で実施できないか。というご意見であった。この点について事務局から回答する。</p>
事務局	<p>コロナ禍で対面による相談事業が難しいことが想定されたため、オンラインによる相談活動の可否について、施設・事業所に確認したところ、全施設・事業所ともIT機器設備はあり、オンラインによる相談活動は可能であった。</p> <p>しかし、高齢者がIT機器を通じた会話が受け入れられるのか疑問という意見や、プライバシー保護や周囲の雑音を防ぐための個室の確保、別室で実施することによる相談場所への移動支援等、環境や人的支援で負担が大きいという課題があった。</p> <p>家族との面会も緊急事態宣言等で中止されており、オンライン面会で対応した施設からは、最初は反応が良かったが、パソコンを通しての会話が続く</p>

	相手を家族と認識せず表情が固まったり、言葉が聞き取りにくく職員が通訳したり、話が続きず席を離れてしまうなど、本人・家族両者ともオンラインによる面会は難しかったとのこと。このような状況から施設・事業所からは、オンラインより対面での相談をお願いしたいとの要望が多く、当事業は可能な限り訪問による対面での相談活動を継続したい。
委員	今の説明を聞いて、高齢者がそういった行動をとることに驚いており、認識が足りなかった部分があると感じている。例えば大学での授業は、2年以上すべてオンラインで行っている。オンラインの方がはかどるという声がある一方で、みんなで対面にて授業を受けたいという声もある。今後その要因等は検証が必要だと思う。 社会でデジタル化が進んでいる中で、このままデジタル化を継続できる部分がある反面、デジタル化してはならないもの、慎重にならなくてはならないものもあると思う。高齢者のサービスの中でも、村として対面で行うことを線引きしながら、デジタル化を進めていくことが必要だと思う。8期の委員会の中でそういった点も話し合えれば良いと思う。
委員長	その他ご質問・ご意見はございませんか。
委員	P5 援護者の見守り体制の強化について 新規事業所との締結とあるが、セブンイレブンとライフデリは各店舗と契約しているのか。もしくは本社と契約しているのか。
事務局	セブンイレブンは本社と契約している。ライフデリは日立店のみと契約しているが日立店が東海村のエリアを統括しているので、東海村がカバーされている。
委員	セブンイレブンは村内に店舗ができれば自動的に協定する店舗が増えるということか。
事務局	そういうことになる。
委員	P8 避難行動要支援者の避難支援について 未協定の自治会は今後どうするのか。
事務局	未協定の自治会にはアプローチは継続しているものの、高齢化等自治会自体に課題があり進んでいない。
委員	私は以前民生委員をやっていた。民生委員が要支援者の人数等は把握している。このことから、民生委員に情報を与えて動いてもらうのがいいのではないか
事務局	現在も要支援対象者の把握について民生委員に協力をさせていただいている。要支援者の支援については、行政のみでは地域すべて速やかにカバーできないので、自治会や民生委員にも災害時は協力してもらうことになっている。未協定の自治会は高齢化に伴う脱退が増加し、自治会を存続させること自体

	が難しいとのことなので、自治会をどのように存続していけるかという地域づくりの課題と一緒に考えていく必要がある。要支援者のことをよく把握している民生委員を含め、地域の関係者と連携してこの課題には取り組みたいと考えている。
委員	百塚区では民生委員が欠員になっていることもあり、同じ動きを進めるのが難しいという点があると思う。 現在村内で5名民生委員が欠員となっていることもあり、全体を進めるのには難しい面があると思う。
委員	P1の認知症予防教室の開催について。 社会福祉協議会ではスマホ講座を実施している。その中で高齢者もYouTubeに興味を持っていることが明らかになった。このため、先ほどの動画のURLを地域に出た時に宣伝することなどもできるので、今後連携していきたい。

(3) 8期計画推進に向けたグループワーク（1回目）

～グループワーク及び各グループの中間報告～

講評

委員長	どのグループも発言が活発で、議論が深まったと感じた。各グループに与えられた課題について専門性を発揮できるグループ分けにもなっていた。 議論が活発だったので、隣のグループの声が聞こえてしまうことから、次回は机をもっと離れた方がいい。
-----	--

(4) その他

委員	社会福祉協議会からボランティア体験プログラムについて ボランティアセンター主催で、ボランティア体験を行う。1日目と2日目で内容が異なっているため、是非参加して欲しい。
事務局	次回の委員会は1月末を予定している。 内容は今回のグループワークの続きと行政からの説明を予定している。

5 閉 会

<配付資料>

事前配付

- 資料 1 第 1 回高齢者福祉計画推進委員会配布アンケート集計結果
- 資料 2 第 8 期計画 令和 3 年度事業（施策目標 1・2 関係）中間実績
- 資料 3 意見・質問票
- 資料 4 高齢者福祉計画推進委員会のグループワークについて（両面）
- 資料 5 グループワークのテーマと関連資料
- 資料 6 ワークシート

当日配付

- 式次第
- ボランティア体験プログラムについて（チラシ）